ノリ情報（最終号）

山口県水産研究センター内海研究部

平成15年3月16日

1　気象・海況

(1)　水温と降水量

水温は9月上旬から10月中旬まで平年より0.5～1℃高めに推移しました。10月下旬からの冷え込みで、漁期全般において平年より3℃前後低めに推移しました。

降水量は9月中旬は平年より多く、9月下旬から12月上旬まで少なめに推移しました。12月中旬から概ね平年並みに推移しました。

（2）　栄養塩

(DIN)　全般に平年より大幅に低めに推移しました。特に宇部地区は河口寄りでは100～150ガンマと、まずまずの量で推移しましたが、東寄りの地点２１～２２付近は極端に高い値を除いて5～60ガンマと非常に少ない状況が続きました。防府地区も極端に高い値を除き20～60ガンマと低い状況でした。

(PO4-P)　全般に上下動が激しいものの平年並みかやや低めで推移しました。

2　今年度の状況（まとめ）

(1)　採苗　県内での陸上採苗は、タンチサイが９月21日から27日に、在来種が９月29日から10月３日に行われました。芽付きはやや薄目でしたが、育苗中の芽落ちもなく、結果として適正な芽付きのものが多く生産されました。野外採苗は高泊地区で月9月27日頃に、王喜地区で10月５～7日頃に行われました。野外採苗網も適正な芽付きのものが多く生産されました。

(2)　育苗　県内採苗の網はタンチサイが9月24日頃から、在来種は10月4日頃から育苗が開始されました。10月20日時点で肉眼視サイズとなり、葉体のねじれ、ちぢれも少なく良好に推移しました。高泊地区は在来品種が10月25日頃に入庫されました。王喜地区は30日頃入庫、31日頃単張りされ、大半は直張りでの生産となりました。

宇部地区では10月24日から県外移入網が搬入されました。平均45mm、芽付き50～300本のものが中心で、やや色落ちぎみでした。育苗中は、床波寄りで色落ち気味であったほかは概ね順調に推移し、月末から11月5日頃までに入庫されました。本張りは8日を予定していましたが、時化のため10日に延期されました。

葉体はねじれ、ちぢれは少ないものの、縁辺部に顕微鏡的な小じわが目立ちました。

(3)　生産

王喜地区　単張り後、11月8日には鴨による食害と思われる芽落ちが見られたため、網を沈下させるケースが多く見られました。期間を通じて比較的色のあるノリが摘採されましたが、前半はクモリが多く見られました。

高泊地区　タンチサイは10月下旬から摘採が始まり、11月8日には早い人で2回目の摘採に入り、1400～1500枚の生産が続きました。色落ちも全くなく、甘みの強い製品が生産されました。在来品種に移行後は全般に色が薄く、クモリが多く見られました。12月下旬に回復したものの、下旬から漁期末まで色落ち傾向が続きました。

宇部地区　期間を通して宇部岬東部漁場では色落ち傾向が続きました。初回の摘採は全般に葉体のヒキが強いためチヂレや穴を生じやすい上に、クモリを生じやすく、製品にならないケースも多かったようです。ヒキが強かったのは、縁辺に顕微鏡的な小じわが多かったことも原因の一つと考えられます。12月下旬には東部でも少し色が回復したものの、品質的には今ひとつの状況でした。1月中旬まで、秋芽を主体に比較的良好な生産が続きました。1月下旬から再び全域で色落ちし始め、東部漁場では2月中旬から網揚げも始まりました。

防府地区　移入網を搬入後、大半はそのまま冷凍し、11月6～7日に張り込まれ、8日には2～3枚へ展開されました。本年度から、これまで生産の不安定だった中浦地区の漁業者も向島漁場での生産が可能になりました。下旬から摘採が始まり、12月10日には3回目の摘採が行われました。伸びはよかったものの、品質的には今ひとつの状況でした。

3　病害発生

下関地区では低吊りが続いたためか、疑似白ぐされ症がみられ、クモリの一因にもなったと考えられます。また、1月下旬には時化による生産サイクルの遅れに伴い、あかぐされ病が散見されました。

4 赤潮発生

年内は栄養塩が極端に少なく、プランクトンの発生も少なかったようです。2月に入り、下関～小野田沖にかけて珪藻プランクトン（優占種：リゾソレニア、ユーカンピア、デトヌラ、タラシオシーラ、キートララス）が例年より早く増加し始めました。

5 共販結果 13、14年度共販回別の生産枚数、生産金額、単価の推移は別紙の通りです。宇部地区では、初回から3回共販まで東部地区の色落ちや、葉体特性由来と思われるクモリ、穴、チヂレによる生産減、品質低下が枚数、金額に大きく影響しました。